

WE

1

スタートから小道の分岐付近に出て、傾斜変換から植生界をたどるルート（A）か、植生界の角からアタックするルート（B）等が考えられる。番場と深沢はスタート直後に小道を勘違いして川（C付近）まで落ちてしまい、23位（番場）、48位（深沢）と大きく出遅れる。近藤はAとBの中間付近で小道から離れているが、そこから真っすぐコントロールへは向かわず、一度Aルートの尾根に行ってからアタックしている。

A：小林、上松、塩田、番場

B：深沢

1

- 1．小林（8:48）
- 2．上松（9:11）
- 3．塩田（9:16）
- 4．近藤（9:39）
- 5．山田（9:51）
- 6．酒井（9:52）
- 7．森田（10:02）
- 8．本多（10:05）
- 9．山根（10:07）
- 10．伊東（10:14）

1 2

入賞者6名のうち、近藤を除く5名がAのピーク付近まで行って下るルート（D）を選択している。直進ルートを選択した選手はいない。近藤は川を越えた後に直進に近いルート（E）を選択しているが、手前の溝に引っかかって下りすぎてしまい、登り返している。

D：小林、上松、塩田、番場、深沢

E：近藤

1 2

- 1．番場（5:31）
- 2．小林（5:46）
- 3．上松（6:09）
- 4．塩田（6:12）
- 5．深沢（6:15）
- 6．山田（6:42）
- 7．下村（6:47）
- 8．森田（7:04）
- 9．池田（7:08）
- 10．井上（7:25）

2

- 1．小林（14:34）
- 2．上松（15:20）
- 3．塩田（15:28）
- 4．山田（16:33）
- 5．森田（17:06）
- 6．近藤（17:33）
- 7．酒井（17:43）
- 8．井上（17:47）
- 9．番場（17:51）
- 10．伊東（17:58）

3 4

尾根上を進むルート（A） 尾根の南側の小道を使うルート（B） 尾根の北側斜面を進むルート（C） 等が考えられるが、最も速いと考えられる北側斜面のルートは、下に流されてしまうことを恐れた為か、選択したのは小林のみである。塩田は途中で北側斜面に落ちて（D）約4分のミス。

A：上松、番場、深沢

C：小林

D：塩田、近藤

3 4

1．小林（5:53）

2．上松（6:37）

3．安形（6:45）

4．深沢（7:21）

5．岡田（7:24）

6．近藤（7:25）

7．藤田（7:29）

8．番場（7:30）

9．山根（7:40）

10．高橋（7:52）

4 5

道を使うルート（E）と、植生界の南側に沿って進むルート（F） 植生界の北側に沿って進むルート（G）が考えられる。

E：小林、番場、深沢

F：塩田、近藤

G：上松

4 5

1．小林（7:05）

2．番場（7:23）

3．塩田（7:27）

4．上松（7:31）

5．安形（7:37）

6．森田（8:16）

7．山田（8:34）

8．横江（8:38）

9．深沢（8:39）

10．大島（8:41）

5

1．小林（36:35）

2．上松（38:02）

3．番場（41:08）

4．塩田（43:14）

5．井上（44:41）

6．森田（47:36）

7．山田（45:48）

8．岡田（46:25）

9．近藤（46:54）

10．横江（47:53）

9 10

途中の川を渡るか（A）道を回るか（B）のルートが考えられるが、川を渡る場合は直進ルート上にあるの白い沢を使わないと、渡りにくいのでタイムロスにつながる。

A：小林、上松、番場、近藤、深沢

B：塩田

9 10

1．番場（2:26）

2．小林（2:34）

3．塩田（2:35）

4．深沢（2:52）

5．森田（2:53）

6．谷（2:55）

7．安形（3:03）

7．池田（3:03）

7．古澤（3:03）

10．上松（3:04）

10．近藤（3:04）

10 11

10番から西へ登って平らな尾根上を走るか（C）出戻りして小道を使うか（D）の選択になる。アタックでは小道をたどって分岐まで行き、東側の沢を横切ってアタックするのが最も簡単だが、小道を使わなくてもテラス状の地形（コントロールの南東に位置する沢の中とコントロールのすぐ南の尾根上）に着目していればコントロール位置は分かりやすい。

C：小林、上松、番場、近藤

D：塩田、深沢

10 11

1．近藤（5:26）

2．小林（5:37）

3．番場（5:41）

4．上松（5:59）

5．塩田（6:07）

6．安形（6:08）

7．古澤（6:09）

8．深沢（7:08）

9．谷（7:15）

10．波多野（7:35）

11

1．小林（1:02:28）

2．上松（1:06:00）

3．番場（1:09:39）

4．塩田（1:10:14）

5．近藤（1:17:41）

6．深沢（1:20:11）

7．井上（1:21:24）

8．安形（1:22:02）

9．池田（1:22:07）

10．岡田（1:22:52）

1．小林（1:08:34）

2．上松（1:11:50）

3．塩田（1:15:50）

4．番場（1:16:29）

5．近藤（1:25:06）

6．深沢（1:26:33）

7．井上（1:27:53）

8．安形（1:28:15）

9．池田（1:29:15）

10．岡田（1:31:00）

終始安定した力を発揮した小林が序盤からトップを譲ることなく優勝した。上松、塩田、近藤も序盤からコンスタントに上位のラップを刻み、また、番場と深沢はスタート直後のミスから見事に立ち直り、入賞を手にした。井上は入賞圏内で安定したラップを刻んでいたものの、11番のミスが響いて1歩及ばず。1番と2番で大きなミスをして51位と大きく出遅れていた安形は、3番以降で上位のラップを取り続け、8位に食い込んだ。

ME

1

スタートから小道の分岐付近に出て傾斜変換から植生界をたどるルート（A）植生界の角からアタックするルート（B）等が考えられる。小野田は、スタート直後に小道にうまく乗ることが出来ず、約1分のミス。高橋はBの植生界の角からそのまま東へ植生界をたどり、川を横切ってアタックしている。ベストラップを取った上野はAのルートを選択している。

A：篠原、小野田、内山

B：安井、紺野

1

- 1．上野 (7:17)
- 2．紺野 (7:24)
- 3．篠原 (7:26)
- 4．安井 (7:27)
- 5．金澤 (7:29)
- 6．中島 (7:42)
- 7．西脇 (7:46)
- 8．前田(直) (7:47)
- 9．井下田 (7:49)
- 10．高橋 (7:57)

2 3

2番までの下り基調のレグから一転して、前半で最も登りが多いレグ。途中で越える尾根線上の道まで、いかにスムーズに出るかがポイント。安井は4番コントロールの近くまで行ってしまい、約1分半のミス。

2 3

- 1．紺野 (5:03)
- 2．金澤 (5:14)
- 3．高橋 (5:24)
- 4．小野田 (5:26)
- 5．田崎 (5:36)
- 5．帖佐 (5:36)
- 7．清水 (5:38)
- 8．西村(秀) (5:39)
- 8．金谷 (5:39)
- 10．内山 (5:40)

3

- 1．紺野 (13:57)
- 2．金澤 (14:30)
- 3．高橋 (14:43)
- 4．篠原 (15:04)
- 5．猪飼 (15:16)
- 6．許田 (15:19)
- 7．上野 (15:35)
- 8．内山 (15:45)
- 9．榎本 (15:48)
- 10．安井 (16:00)

5 6

斜面をコンタリングして植生界の角からアタックが速いが、安井は直進に近いルートを選択し、アタックで植生界がある沢へパラレルエラーをしている。

5 6

1. 紺野 (3:14)
2. 西村(秀) (3:15)
3. 小野田 (3:19)
4. 高橋 (3:25)
5. 内田 (3:26)
6. 八巻 (3:29)
7. 後藤 (3:34)
8. 西村(宏) (3:39)
9. 猪飼 (3:42)
10. 兼田 (3:45)

6 7

B やぶや細かい尾根や沢、みぞ等を横切る直進ルート(A)が下の道まわり(B)よりも若干速く、篠原と小野田がこのルートを選択している。他の入賞者は下の道まわりだが、安井と紺野は道を100mあまりオーバーランしてしまい、1分以上のミス。

A : 篠原、小野田

B : 高橋、安井、内山、紺野

6 7

1. 西村(宏) (2:50)
2. 小野田 (2:57)
2. 八巻 (2:57)
4. 篠原 (3:08)
5. 兼田 (3:09)
6. 高橋 (3:10)
6. 西脇 (3:10)
8. 清水 (3:11)
8. 田崎 (3:11)
10. 前田(直) (3:12)

7

1. 紺野 (26:06)
2. 高橋 (26:22)
3. 篠原 (27:11)
4. 小野田 (28:06)
5. 清水 (28:42)
6. 金澤 (29:31)
7. 許田 (29:36)
8. 上野 (29:47)
9. 兼田 (29:50)
10. 中島 (30:05)

8 9

尾根の北側斜面を進むルート(A)、尾根をたどるルート(B)、尾根の南側の小道を使うルート(C)等が考えられる。小野田と紺野はCのルートの途中にある小道の分岐から尾根に乗ってアタックしている。

A : 安井

B : 内山

C : 高橋、篠原

C + B : 小野田、紺野

8 9

1. 高橋 (3:55)
2. 西村(宏) (4:10)
3. 金澤 (4:17)
4. 内山 (4:22)
5. 安井 (4:25)
6. 篠原 (4:27)
7. 西村(秀) (4:31)
8. 田崎 (4:34)
9. 兼田 (4:37)
10. 西脇 (4:39)

9 10

平らな尾根上を進むルート(D)を選んだ選手がほとんどだが、高橋は道まわりルート(E)を選択し、約1分半遅れている。紺野はDのルートを選択したが、WEの5番コントロール付近に行ってしまうと現在地ロストし、2分以上のミス。

D: 篠原、小野田、安井、内山、紺野

E: 高橋

9 10

1. 安井 (6:31)
2. 篠原 (6:48)
2. 小野田 (6:48)
4. 金澤 (6:51)
5. 猪飼 (6:54)
6. 西村(秀) (7:09)
7. 内山 (7:13)
8. 円井 (7:33)
9. 許田 (7:38)
10. 加藤 (7:41)

10

1. 篠原 (44:16)
2. 高橋 (44:38)
3. 紺野 (45:08)
4. 小野田 (45:41)
5. 金澤 (46:12)
6. 安井 (47:22)
7. 許田 (48:01)
8. 内山 (48:09)
9. 西村(秀) (48:43)
10. 上野 (50:17)

14 15

コントロールから尾根を登って尾根線上を西へ進み、道に出て救護所から尾根をたどってアタックのルート(A) 道まで出ずに真っすぐ進むルート(B) コントロールから南に下って道を使うルート(C) コントロールから北にコンタリング気味に脱出して小道を使うルート(D)などが考えられる。Dのルートだと16 17のルートの一部をたどることになるが、入賞者にはこのルートを選択した選手はいなかった。また、コントロールへ下からアタックする道まわりルートも考えられるが、入賞者は全員尾根上からアタックしている。紺野はAのルートを選択したが、救護所を通る道まで下らずに尾根線を利用している。

A: 高橋、篠原、内山、紺野

B: 小野田

C: 安井